

令和5年
3月6日

県議会2月定例会 予算特別委員会

スマート農業の推進について

県として小規模・中山間地にも対応可能な実証実験プロジェクトに取り組んでいる。導入経費が課題、コスト低減を進め収益拡大を図る。
(農林水産部長)

東北農林専門職大学と地域、小中高校との連携について

大学と地域との連携は不可欠。職業として農業を捉え、進学先として選択してもらえることが大切。高校では出前講座、探究学習などで助言、また幼小中でも関わっていく。実習、課題解決のためのフィールドワーク、共同研究を進める。地域から頼りにされる大学を目指す。
(農林水産部長)

高校の高大連携の取組強化について

現在8割の高校で大学と連携をしている。スーパーサイエンスハイスクール(SSHS)指定の米沢興譲館高校では、大学での学びを高校の単位として認定。山工学部進学時には大学の単位として認定している。産業系高校では企業でインターンシップを行っている。令和5年度長期インターンシップを創設し単位認定を検討。大学との間で可能かも検討。積極的に連携カリキュラムを検討。
(教育長)

産業系高校からの大学進学について

就職者が多いが4割ほどが進学している。普通教科の支援については県教委が実施する進学セミナー、オンライン講座の受講対象を拡大し対応する。
(教育長)

産業系高校のSSH取得と高大連携、その先の企業との連携について

生徒、保護者にとってモチベーションが高まり、魅力ある選択肢となりうる産業系高校にしていくようSSH取得も含め検討していく。
(教育長)

新庄病院の開院までのスケジュールについて

3月末に建物の引き渡し、4月以降は外構工事、7月末にすべての工事完了予定。通常診療を続けるが、放射線治療は6月上旬から、医療機器の移設等に伴いやむを得ず診療を休止する予定がある。7月の休診日3日間で情報システムの整備。開院2週間前から予定入院の制限、その他については丁寧な情報発信をしていく。9月18日に開院記念式典と県民向けの内覧会を行う。
(病院事業管理者)

新庄病院における救急患者の受け入れ体制について

救命センターと休日夜間診療所が病院内に併設される。救命センターの救急専門医は1月から配置している。病院全体の救急医療のレベルアップを図っている。ドクターヘリのヘリポートを敷地内に設置し、10〜15分ほど搬送時間が短縮。医師会の協力を得て休日夜間診療所も併設する。受診先を迷うことがなくなるとともに、救命センターと患者を割り振ることで病院医師の負担軽減につながる。
(病院事業管理者)

県内初となる「患者総合サポートセンター」について

保健所機能を病院内に置くのは全国初。住民への啓発、情報発信をしていく。病院と一体的に機能していくことで健康長寿に寄与するとともに、住民の健康な生活を総合的にサポートする。
(健康福祉部長)

新庄病院における診療科について

抗がん剤治療を専門とする腫瘍内科の医師が診療を開始している。開院に向けて緩和ケア内科の準備も進めている。腎臓内科と糖尿病内分泌内科の設置準備を進めている。新病院では28科の診療体制となる。
(健康福祉部長)

新庄最上地域にかける思い、所感を知事に伺う



吉村美栄子県知事

新庄最上は歴史、伝統、文化、自然など伸びしろの大きい地域だが、一方で高齢化、人口減少が県内でも著しく、豪雪といった課題も大きい。県として対応してきたが、新庄病院の改築や専門職大学の設置が一つの形になってきた。着々と準備を進めている。道路もつながり、交通の要衝として磨きがかかっていくだろう。これらを地域の皆さんがどのようにして生かし発展につなげていくかがということが問われる。県としても最上地域の発展が県全体の発展につながるよう市町村と連携して取り組んでいきたい。
(知事)

外来診療10月4日から

新庄病院 入院患者搬送など考慮

県議会2月定例会は6日、予算特別委員会を開き、小野幸作(自民)・山科朝則(無所属)・金沢忠一(自民)の3委員が総括質疑を行った。10月1日に移転・開院予定の県立新庄病院(新庄市)の外来診療開始日について、県病院事業局は現施設からの入院患者搬送や医療機器移設を考慮し、同月4日になることの計画を示した。

県議会 予算特別委



山科朝則委員 (無所属)

▼県立新庄病院(新庄市)の10月1日の開院に向けたスケジュールは。

大沢賢史病院事業管理者ががんの放射線治療装置は6月上旬から開院まで移設のために稼働できなくなるため、必要な患者には他の医療機関を紹介する。開院前後の入院患者搬送や医療機器移設を円滑に行うため、開院の2週間ほど前から急を要しない患者の予定入院を一部制限し、9月30日から10月3日までには救急や分娩、人工透析などに限って診療し、

農林専門職大は地域実習を計画
地主徹農林水産部長 教

員の出前授業や児童生徒が大学に受け入れての模擬授業・作業体験を実施しながら本学の優位性をPRする。高校の探究型学習で教員が助言指導するなどし、大学の魅力を感じてもらおう。授業の一環で、地域の農林漁業経営体での長期実習やフィールドワークなどを計画している。教員と学生が積極的に地域に入り、議論を重ね、課題解決と活性化に貢献したい。
(鈴木悟)



東北農林専門職大学完成予想図

(令和5年3月7日山形新聞より)

皆様のご意見をお寄せください。

山科とものりホームページ <http://www.yamashina.jp/>

